

敦賀市立看護大学

地域・在宅ケア研究センター活動報告

平成 29 年度



地域・在宅ケア研究センター

はじめに

地域・在宅ケア研究センター（以下研究センターとする）は、平成 26 年 4 月に開学した敦賀市立看護大学の附属機関として設立されました。設立目的は、地域の人々の健康を守り、安心して暮らせることを目指した活動の拠点としての役割を果たすことにあります。地域に根差し、現場に学び、地域に開かれた教育研究をすすめるという看護学の具体化に向けて、様々な活動を模索し、本年度で設立から 4 年目を迎えました。

研究支援活動として、地域における看護職を対象に、研究入門講座や研究サポートを行いました。また、看護や地域医療保健福祉の質の向上に資することを目的として、研究報告会を開催いたしました。

地域住民の健康づくり活動として、看護大学喫茶を開き、住民と交流しながら、講演や体力チェック、健康相談を行いました。また、地域住民の方々の要望に応じて、講演を行いました。敦賀 FM ハーバーステーションを活用して「敦賀市立看護大学だより」という題名で、教員の研究内容や健康に関する情報を放送しています。

地域に根差すことを目的に、地域で開催されるイベントなどには積極的に学生や教職員が参加しています。

以上の活動を、平成 29 年度報告書としてまとめました。内容や方法について、皆様のご意見やご助言をいただき、活動に活かしていきたいと思っております。

平成 30 年 3 月

地域・在宅ケア研究センター長
畑野 相子

目 次

1 教育

I. 教育

1. 看護方法研究論講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - (1) 平成 29 年度看護研究入門講座・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (2) 研究サポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

2. 看護大学喫茶事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (1) 平成 29 年度看護大学喫茶事業の実績・・・・・・・・・・・・ 5
 - (2) 看護大学喫茶まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

3. 出張講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

4. FM ラジオ放送 (敦賀 FM 放送)・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

II. 研究

1. 研究実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - (1) 認知症に関する生涯学習講座受講者の意識と能動的かかわりの実態・・・・・・・・ 10
 - (2) 住み慣れた地域で暮らし続けることに関する生涯学習講座受講者の意識・・・・・・・・ 11
 - (3) 大腿骨疾患を抱える当事者と家族の在宅療養初期における生活上の困難と対処・・・・ 12

2. 研究報告会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

III 地域への協力

1. 美浜町への協力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - (1) 美浜町国民健康保険医療費適正化部会のアドバイザーとして協力・・・・・・・・ 14
 - (2) みはまナビフェス 2017 (健康福祉部門) はあとびあまつり・・・・・・・・ 14
 - (3) 美浜町健康づくりフォーラム～これからのげんげん運動～・・・・・・・・ 14
 - (4) 老人家庭相談員研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

2. 平成 29 年度ボランティア参加実績・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

3. 敦賀市各種委員会等への参加・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

4. 地域行事参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

1. 教育

1. 看護研究方法論講座

下記に示した要項に基づき、看護研究入門講座及び研究サポートを行った。

看護研究方法論講座実施要項

1. 看護研究方法論講座の目的

- 1) 臨床現場における看護研究の推進をはかり、科学的思考の基で看護ケアが創造できる能力を身に付けることを支援する。
- 2) 看護研究の成果を当該施設内外で発表することにより、自信を身に付け、看護を探究する姿勢を高めることを支援する。
- 3) 研究発表により当該施設を間接的に広報できることを支援する。
- 4) 大学と当該施設の良い関係を構築し、当該地域における医療・看護が円滑に行えるようにする。

2. 指導対象者

- 1) 敦賀市および美浜町の医療・保健・介護関係施設に勤務する看護職者
- 2) 受け入れ可能な研究指導件数は、個人・グループ等で20件程度

3. 研究の進め方

- 1) 大学において看護研究方法に関する講義・演習を行う。
日時・内容の詳細は別途定める。
- 2) 個人またはグループで研究テーマを決め、4月末日までに研究指導申込書を作成する。ただし、研究テーマについて相談に応じる。
- 3) 研究テーマに合わせて担当教員を配置する。
- 4) 担当教員決定後は、原則として共同研究（本学の倫理審査を受ける権利の保証）という関係で研究をすすめていく。
- 5) 研究発表会や学会等で発表する。
- 6) 可能な限り論文作成をめざす。

1) 平成 29 年度の看護研究入門講座

(1) 大学において看護研究に関する講義を行った。講座の日時、内容、担当教員名を表 1-1 に示した。

表 1-1 平成 29 年度の看護研究方法論講座の概要

		内 容	担当
1 日目 (2 月 3 日)	① 13:00~13:30 (30 分)	テーマ：看護研究入門講座について 内 容：講座の概要・看護研究の目的・意義	畑野相子
	② 13:40~15:10 (90 分)	テーマ：文献検索の方法 内 容：文献検索の演習	住本和博 野沢和也
	③ 15:20~16:20 (60 分)	テーマ：文献のクリティーク 内 容：文献の読み方についての講義と演習	池原弘展
2 日目 (2 月 17 日)	④ 13:00~14:30 (90 分)	テーマ：研究の種類・質的研究 内 容：質的研究の進め方の講義	木谷尚美
	⑤ 14:40~16:10 (90 分)	テーマ：研究の種類・量的研究 内 容：量的研究の進め方の講義	伊部亜希
3 日目 (3 月 4 日)	⑥ 13:00~14:00 (60 分)	テーマ：研究の倫理と倫理審査 内 容：研究に必要な倫理と本学研究倫理審査会に必要な内容についての講義	茂庭将彦
	⑦ 14:10~16:10 (120 分)	テーマ：研究計画書の作成 内 容：研究計画書の作成の演習 個別相談 PC 演習基礎編（希望に応じて）	畑野相子 木谷尚美 中堀伸枝 鈴木隆史
	⑧ 16:10~ (10 分)	今後の進め方について アンケート記入	



(2) 施設別申込者数及び受講者数を表 1-2、表 1-3 に示した。

表 1-2 看護研究入門講座 申込者数

施設名	講義		
	2月3日	2月17日	3月4日
市立敦賀病院	7	7	7
敦賀医療センター	10	10	11
合計	17	17	18

表 1-3 看護研究入門講座 受講者数

施設名	講義		
	2月3日	2月17日	3月4日
市立敦賀病院	7	6	3
敦賀医療センター	9	8	7
合計	16	14	10

(3) 入門講座に対する評価（参加者へのアンケートの単純集計の結果より）

講義全体を通じた難易度について、「とても難しかった」「難しかった」と回答した割合は、2月3日 69%、2月17日 83%、3月4日 56%であった。講義が参考になったかについては、どの講義についても 90%以上が「参考になった」と回答した。

参考になった具体的内容について以下に記す。

<2月3日>

- ・先行研究を参考して、そこから自分の研究を見出す必要があると理解できた。
- ・クリティークに対する自分の理解が少しわかったように思う。
- ・文献クリティークの機会が今までなかったので、勉強になった。
- ・文献検索の具体的方法を教わったので、活用して先行文献の検索を行っていききたい。

<2月17日>

- ・質的研究が学べた。1人の考えではなく、他人の見方を得ることが大切と分かった。
- ・研究対象者の選択や、面接の留意点、データの分析方法など、具体的であった。
- ・あった尺度と検定を使用しなければ、意味がないということが分かった。
- ・数字で目で分かるようにすることは大事であることをとても学んだ。

<3月4日>

- ・研究は計画書が大切だと分かった。倫理委員会を通るのが難しそう。
- ・計画書の書き方がよかった
- ・研究に取り組むにあたって悩んでいたところが、少し明かりが見えてきた。
- ・先生と話し合いができてよかった。

今回の参加者の属性をみると、全員看護師で、経験年数が10年未満のものが、63%と多かった。参加者の半数が研究に関する研修会に参加した経験があり、受けた機関は院内・職場内が31.3%と最も多かった。また、参加者の62.5%が看護研究に取り組んだ経験がなかった。

これらのことから、本講座が、市内医療機関の看護師の研究に関する入門の研修会の場として認識・活用されていることが伺えた。市内の新人・中間層の看護師が一通り研究入門講座を受けた後の講座プログラムの検討が今後の課題になると考えられた。

2) 研究サポート

講座受講後、研究指導申し込みが10件あり、研究サポートを行った。

9件は国立病院機構敦賀医療センターからの申し込みであった。研究成果は、平成29年1月30日～1月31日にかけて院内で発表された。研究テーマ、研究者、指導教員を表2-1に示した。

表2-1 平成29年度 研究指導実績

No.	テーマ	施設名	研究者名	担当教員
1	がん患者のその人らしさを尊重する関わりとは ～臨床倫理検討シートを活用しての事例検討～	国立病院機構 敦賀医療センター 【2階病棟】	寺元 恵 川嶋 智輝 奥田 実穂 高城 絵美 金谷 繁美 樋口 泰子	高島真理子
2	アンダーマネジメント学習による看護管理者の対処行動の変化	国立病院機構 敦賀医療センター 【看護部】	森北 裕美子 本間 みどり 下門 すみえ	長井麻希江
3	重症心身障害者における腹部マッサージを用いた排便コントロール	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟1階】	松本 理沙 山田 京子 酒井 萌 近藤 好美 市元 あゆみ	北村隆子
4	拘縮手を伴う重症心身障がい児（者）の手浴方法の検討 ～入浴時のストレッチを取り入れて～	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟3階】	濱上 恵美 山田 眞壽美 吉田 薫 嶋田 文枝 田端 美津子 岩中 勇磨 竹内 元浩	吉川由希子
5	卒後1年目の看護師の体験	国立病院機構 敦賀医療センター 【3階病棟】	奥野 あかね 川崎 彩香 岡村 真奈美 榎 千登美	高原美樹子
6	高齢患者のせん妄に関する教育プログラム実施前後の病棟看護師の意識変化	国立病院機構 敦賀医療センター 【4階病棟】	江戸 彩織 林 加奈子 西本 聖子 西川 直美	木谷尚美
7	「敦賀医療センターにおける地域包括ケア病棟の理解度」についての実態調査	国立病院機構 敦賀医療センター 【5階病棟】	西野 さゆり 武岡 佳恵 石丸 沙織 別府 みさ 岡平 未来 長谷 由紀子 江口 由子	横山浩誉
8	重心病棟で用いている埋込み式便器の下痢便の跳ね返りによる汚染程度の把握	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟2階】	福塚 重徳 末永 文香 渡邊 麻生 松村 恒	池原弘展
9	手術室における震災時の危機管理に関する研究 ～看護師の意識とシミュレーションからみえてきた課題～	国立病院機構 敦賀医療センター 【手術室】	小西 希 杉本 涼輔 園田 有貴 本間 江みどり	河合正成
10	訪問看護師が高齢者と家族介護者間の葛藤に対してどのような調整を行っているのか？ ～福井県嶺南地区の実態調査から、訪問看護師のコーチングを考える～	訪問看護ステーション めいほう	山路 香織 上野山真希	鈴木隆史

2. 看護大学喫茶事業

看護大学喫茶事業の概要

地域住民の健康づくりを支援するとともに、地域に開かれた大学として住民が気楽に集い、交流する場を提供することを目的に、平成 27 年度 3 月から「看護大学喫茶」を開始した。内容は、教員の専門性を活かした講演、住民が自身の健康状態を知り、継続的に健康づくりに取り組める契機となるような健康チェック(体力測定)・健康相談を軸に構成した。

1) 平成 29 年度看護大学喫茶事業の実績

平成 29 年度は、本学で 4 回開催した。内容は、講演、健康チェック、健康相談、喫茶コーナーである。開催状況と参加者数を表 3-1 に示した。

表 3-1 開催状況と参加者数

開催日時		場所	内容	従事者	参加者
第 1 回	7/22 (土) 13:30- 15:30	本学	①講演「飛びつく前に考えよう考えよう ～健康食品の正しい利用法～」 山崎 弘美 准教授 ②健康チェック(体力測定) ③健康相談 ④喫茶コーナーでの交流	41 名 ・教職員 10 名 ・学生 31 名*	13 名
第 2 回	9/30 (土) 10:00- 12:00	本学	①講演「飛びつく前に考えよう考えよう ～健康食品の正しい利用法～」 山崎 弘美 准教授 ②健康チェック(体力測定) ③健康相談 ④喫茶コーナーでの交流	15 名 ・教職員 7 名 ・学生 8 名	24 名
第 3 回	11/4 (土) 10:00- 14:00	本学	①体験コーナー『減塩は「だし」が 決め手』 食生活改善推進協議会 ②健康チェック(体力測定) ③健康相談 ④喫茶コーナーでの交流	19 名 ・教職員 7 名 ・食生活改善 推進員 8 名 ・学生 4 名**	127 名***
第 4 回	3/6 (火) 10:00- 12:00	本学	①講演「心の健康づくり ～心は泣いていませんか?～」 長井 麻希江 教授 ②健康チェック(体力測定) ③健康相談 ④喫茶コーナーでの交流	17 名 ・教職員 10 名 ・学生 7 名	13 名

*在宅看護学分野選択者

**公衆衛生看護学分野選択者

***大学祭と同日開催

2) まとめ

今年度は「健康づくり」をテーマに 4 回開催した。第 1 回目は猛暑日の午後の開催であったこと、事前に講演テーマの周知ができていなかった等の理由で、参加者が少なかった。その反省をふまえ、事前に「広報つるが」にて講演テーマを周知する、午前中や平日に開催するといった工夫をした。結果、講演を聴きに来るという明確な目的で参加する者が増加した。また、講演終了後には、質疑や意見交換などが活発に行われ、参加者の健康への関心の高さが伺えた。これらを踏まえ、今後は大学から健康づくりをはじめとした情報発信としての講演を基軸とし、参加者が健康チェックや健康相談、教職員や参加者同士の交流の場となるような企画をしていくことが望ましい。これに伴い、現行の事業名「看護大学喫茶」では内容

がイメージされにくい可能性があることから、「看護大学喫茶」の名称変更も検討していく必要があると考える。

第3回目は大学祭と同日開催とし、幅広い層の参加を得た。また、減塩みそ汁の試食および食生活に関する相談・助言を食生活改善推進員の方に依頼した。地域の方に減塩について伝えたいという推進員の方のニーズとも合致し、盛況であった。

今年度は、学生ボランティアとして、在宅看護学および公衆衛生看護学分野の3年生が参加した。今後、さらに教育の場としての活用が期待できる。



写真1 看護大学喫茶
会場案内



写真2 講演：心の健康づくり



写真3 健康チェック



写真4 交流の様子

3. 出張講座

出張講座として、教員のそれぞれの知識と知恵を活かして、住民の皆さまや専門職の方を対象とした教養講座と健康講座を開設している。講座テーマを提示し、その中から聞いてみたいと思う内容があれば、クラブ、サークル、会社等のグループ単位で申し込んでもらい、日時、場所等を調整したうえで実施している。

平成29年度は、表4-1に示した通り、6回出張講座を行った。

表4-1 平成29年度 敦賀市立看護大学 出張講座実施状況

No.	実施日	対象団体	講座テーマ名	講師	実施場所	参加人数
1	6月14日	敦賀市学校保健会	笑いと健康	畑野相子教授	あいあいプラザ	100
2	8月25日	敦賀いきいき生涯大学（元気づくりコース）	高齢者の健康（老化に伴う心と体の変化、栄養と食事等）	北村隆子教授	あいあいプラザ	10
3	9月14日	船員災害防止協会 敦賀地区支部	格好良い年の重ね方～体のメンテナンスについて～	鈴木隆史講師	あいあいプラザ	61
4	10月27日	中郷地区老人会	笑いと健康	畑野相子教授	中郷公民館	110
5	12月12日	敦賀いきいき生涯大学（元気づくりコース）	信頼関係をつくるコミュニケーション（コミュニケーションの方法、信頼関係をつくるには等）	長井麻希江教授	あいあいプラザ	10
6	2月28日	呉竹町つぶやき茶屋	薬の常識・非常識	山崎弘美准教授	呉竹町会館	25



4. FM ラジオ放送（敦賀 FM 放送）

毎週月曜日の午前7時・7時20分・7時40分の3回、敦賀FM（番組名：おはようマイタウン）で、研究成果や健康に関する内容を放送している。内容を表5-1に示した。

表5-1 放送月別 テーマと放送の概要

月	氏名	テーマ	概要
2017年 4月	鈴木隆史	「健康づくりの可視化」について	<p>普段の生活の中で「健康づくりの可視化や具体的な活用法」は、子育て中の方は、母子健康手帳を開いて今までの様子を振り返って見ることで、成人の方に対しては自分の身体活動を具体的に測ってみることで、健康診断の結果用紙を一か所にまとめて置くことです。</p> <p>医療機関にかかるときの「可視化」では、あらかじめ聞きたいことや確認したいことを書き留めておくことをお勧めします。日記をつけるように習慣化しておくとうれしいかと思います。</p>
5月	池原弘展	「がん制度ドック®」についての紹介	<p>がんにかかった際の保険は公的・民間含め様々です。そして、申請しないかば受け取れません。何を申請できるかをお知らせするのが「がん制度ドック」です。22の質問に答えて、検索ボタンを押すだけです。質問に答えると、利用できる可能性のある制度見つけてくれます。「可能性」としているのは、利用できるかは関係機関が判断するためです。このサイトは申請主義の弊害である「知らない」を解決するために、利用できる可能性のある制度を「知る」ことができます。知ることが出来たら、関係機関の窓口に行って申請してください。</p> <p>【がん制度ドック®】 http://www.ganseido.com/</p>
6月	伊部亜希	基礎看護学では何を学ぶのか	<p>看護において最も重要なのは「看護の対象者に関心を寄せ、その人を理解すること」である。基礎看護学は学生が初めて学ぶ看護専門科目であるため、この「人に関心を寄せる」ということについて、学生がより多くの気づきを得られるような授業となることを大切にしている。看護援助を決まったやり方として覚えるのではなく、援助対象の「人」を理解し、看護師の創造性を持って支援していくことの重要性について、授業を通して学生が理解することを期待している。</p>
7月	大下邦幸	これからの英語教育	<p>アメリカでのエピソードを紹介し、日本人の英語でのコミュニケーション能力が不十分であることを指摘した。次に、このような状況を改善しようと国が試みてきた施策を紹介するとともに、平成29年3月31日に告示された新しい学習指導要領で英語教育がどのように変わるのか、特に小学校においては教科としての外国語（英語）が開始されるが、その内容およびどのような点が重視されるかについて述べた。</p>
8月	河合正成	救急医療情報キット	<p>万が一の緊急時に備え、＜救急医療情報キット＞を各家庭に設置しておく。＜救急医療情報キット＞は市役所など市町村の福祉課などで入手でき、20cm～30cmくらいの筒状の入れ物に、お薬手帳のコピーやアレルギーの有無、緊急連絡先など医療に必要な情報を入れておく。冷蔵庫内など置き場所を決め、玄関などにその場所を明示しておく。救急搬送時は、救急隊よりキットが持ち出され、病院の治療で有効活用される。</p>
9月	喜多義邦	脳卒中の予防と治療	<p>我が国の脳卒中の現状について滋賀県高島市において1989年から実施している循環器疾患発症登録の成果を用いて解説した。すなわち、死亡率は低下しているが発症率そのものはあまり低下していない。よって、脳卒中による後遺障害を持つ人々が増加することを示した。この傾向を説明したうえで、塩分摂取の抑制、過度のカロリー摂取の抑制等の脳卒中の予防、加えて高血圧治療、心房細動の治療および発症早期の医療機関への受診率治療の重要性を説明した。</p>

10月	木谷尚美	認知症に備える	認知症と共に生きるご本人の思いを理解することは難しく、一番身近な家族でもわからないことがある。そこで、認知症への備えとして、元気なうちに自分が大事にしたいことや生きてきた歴史などを人生のカルテとして書き記しておく取り組みを実践してきた。その紹介とともに、もし自分が認知症になった時、それが自分と家族や介護者との架け橋となり、自分らしく暮らし続けるためのヒントになるというメッセージを送った。
11月	北村隆子	足部の仕組みと健康について	<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ足部の健康が大切なのか 2. 足部を構成しているもの 3. 足部の働きを損なう足に合わない靴とその弊害 4. 靴を選ぶときの注意点 5. 足趾のリラックス方法
12月	木下珠希	平成30年度開設される助産学専攻科の教育について	平成30年4月に開設される助産学専攻科の教育について紹介を行っている。「助産師」の定義、また、「助産師の仕事」について説明を行っていく中で、助産師はどのような人で、どのような仕事を行っているのか、また、これから求められる助産師、敦賀市立看護大学助産学専攻科で、どのような助産師を育成しているのか、どのような教育を行っているかについて紹介している。
2018年 1月	杉浦良啓	ノシボー効果	薬の効果にプラシーボ効果があることは良く知られている。この言葉は「私は喜ばせる」の意味のラテン語に由来する。一方、「気のせいだ」等とされる薬の薬害反応（副作用）にはノシボー効果があることはあまり知られていない。原因は心因性反応によるとドイツの内科医、ハンセンが2012年に報告した。このことについて事例で説明し、最後にインフォームド・コンセントの薬の副作用の説明のあり方を問うた。
2月	杉山由香里	ストレスとの付き合い方	ストレスが強すぎたり持続したりすると身体やこころ、行動面などに不調としてストレス反応がでできます。そのため、ストレスと上手につき合う方法を知っておくことが大切になります。そのポイントは2つあります。1つ目は、自分自身をストレスと感じやすいのかやストレス反応が出やすいかなど、自分の特徴や変化に気付けるようになることです。2つ目は、気分転換や休息、物事の受け止め方を変えてみるなどストレスへの具体的な対処方法をできるだけ多く取り入れた生活を心がけることです。
3月	山崎松美	今では当たり前、糖尿病の管理！！	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病管理の大基本は、病完こかかり続けること。 ・細小血管合併症の予防には、一般的には「ヘモグロビンA1c」7.0%未満を目指す。 ・定期的に眼科に受診する。 ・尿中微量アルブミンを検査してもらう。 ・動脈硬化の進行予防には、食後血糖のチェックが重要である。 ・低血糖の危険性としっかりと栄養を摂ることの重要性



II 研究

1. 研究実績

- 1) 認知症に関する生涯学習講座受講者の意識と能動的かかわりの実態
(学会発表：第76回日本公衆衛生学会総会)

研究者：畑野相子 家根明子 鈴木隆史 木谷尚美 中堀伸枝 茂庭将彦
(敦賀市立看護大学)

【目的】認知症を有した場合に住み慣れた地域で暮らすことへの意識と、そのために必要な地域住民同志の声かけなど能動的なかかわりができる要件や環境整備を検討する上での基礎資料とする。

【研究方法】A市の生涯学習講座受講者 117人を対象に、質問紙を用いた横断的調査を平成28年10月～12月に実施した。調査内容は、基本属性、認知症に関する意識とかかわり等とした。分析は、能動的なかかわりを従属変数とし、属性と認知症に関する意識との関連を χ^2 検定(有意水準5%、統計ソフト：IBM SPSS statistics Ver.20 for Windows)を用いて分析した。倫理的配慮として、調査は無記名とし、解析はコード化したデータを用いた。所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得た上で実施した。

【結果】回収数106枚(回収率90.6%)、有効回答数102枚(有効回答率96.2%)、男性46人(45.1%)女性56人(54.9%)、60歳代42人(41.2%)、70歳代60人(58.8%)であった。「認知症と判断して関わろうとした経験」が「ある」は43人(44.3%)、「ない」は54人(55.7%)であった。有意な関連については、女性($p=0.007$)、医療関連経験者($p=0.03$)、認知症の人との交流経験があり群($p<0.001$)で見られた。「住み慣れた場で暮し続けるためにできる役割」については「ある」は50人(69.4%)、「ない」は22人(30.6%)であった。有意な関連については、女性($p=0.005$)、サポーター養成講座受講者($p=0.041$)で見られた。「認知症になった場合の暮らし」について、「地域で生活したい」は51人(52.5%)、「施設で生活する」は46人(47.4%)であった。有意な関連は、70歳代($p=0.015$)、認知症の人との交流経験なし群($p=0.004$)、認知症予防としての運動あり群($p=0.03$)で見られた。

【考察】能動的かかわりに関する意識と行動は、男性より女性の割合が有意に高いことから、女性の方が積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が窺えた。また、認知症に関する知識を得る機会が多い群が能動的であることから、知識が行動を起こさせる基盤になっていることが示唆された。認知症を有した場合に地域で暮らすことへの意識として、認知症を有する人との交流がある群は、施設での生活を希望していた。この背景には、対応の困難さの体験から家族や子どもたちに迷惑をかけたくないという意識があると思われる。

2) 住み慣れた地域で暮らし続けることに関する生涯学習講座受講者の意識

(学会発表：第76回日本公衆衛生学会総会)

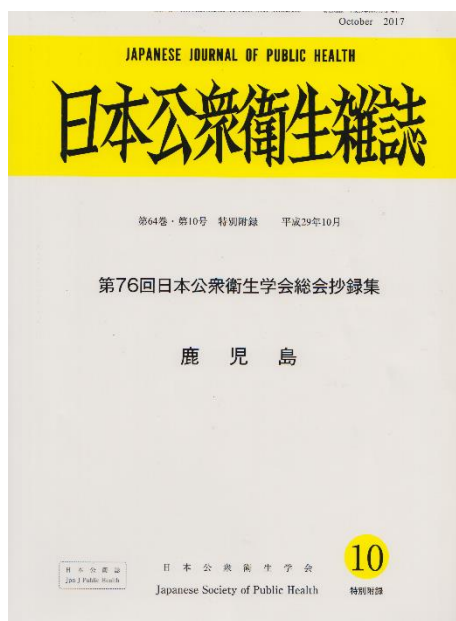
研究者：木谷尚美 中堀伸枝 畑野相子 家根明子 鈴木隆史 茂庭将彦
(敦賀市立看護大学)

【目的】長年同一地域に居住し、生涯学習に意欲的に取り組んでいる地域住民が「住み慣れた地域で暮らし続けるためにできること」をどのようにとらえているかを明らかにする。

【方法】平成27年度A市生涯学習講座受講者117人を対象とし、平成28年10月～12月に記述式質問紙調査により、住み慣れた地域で暮らし続けるためにできることについて自由記述による回答を求めた。記載された内容を質的記述的に分析し、サブカテゴリー< >、カテゴリー【 】を生成した。調査は無記名とし、所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果】自由記述のあったものは56人で、性別は、男性19人(33.9%)、女性37人(66.1%)、年代は、60代23人(41.1%)、70代29人(51.8%)、80代以上4人(7.1%)であった。現地域での平均居住年数は41.3年±17.6年、認知症サポーター養成講座受講経験のある人は、22人(39.3%)であった。分析の結果、13のサブカテゴリーから、3つのカテゴリーが抽出された。【健康で元気な老後のために備える】は、<余暇活動を充実させる><外出し、社会参加をする><人と交流を心がける><自分の生活・健康を管理する><事前に老後について相談する>の5つ、【隣近所の人と支え合う】は、<日頃から付き合いを大切に作る><困っている時には助け合う>の2つ、【能動的に活動する】は、<見守る><声かけをする><話し相手になる><家事を手伝う><ボランティアをする><交流の場を作る>の6つから形成された。

【考察】住み慣れた地域に暮らすためにできることとして、健康で元気な老後に備えること、隣近所と支え合うこと、能動的に活動することの3つが抽出された。本研究の対象者は、近隣住民と長期にわたり関係を築いており、互いに協力しあうコミュニティを形成していると考えられた。また、支援内容をより具体的に記載していた人は認知症サポーター養成講座の受講者だったことから、この講座が地域で互いに支え合うイメージの形成に有効であることが示唆された。生涯学習講座のプログラムに介護予防や養成講座を盛り込み、受講者が講座修了後、地域で実際に活動できるシステムを構築していくことが望まれる。



3) 大腿骨疾患を抱える当事者と家族の在宅療養初期における生活上の困難と対処
(研究論文：敦賀市立看護大学ジャーナル第3号)

研究者：鈴木 隆史 中堀 伸枝 畑野 相子 (敦賀市立看護大学)

本研究は、大腿骨疾患を抱える当事者と家族が、在宅療養初期において、どのような生活上の困難に直面し、対処方法をとっているかを明らかにすることを目的とした。大腿骨疾患で治療をうけ、退院して1カ月程度経過した当事者8名とその家族を対象者として、生活上の困難と対処方法についてインタビューを行った。調査期間は、平成27年1月から同年11月とした。語りから逐語録を作成し、質的帰納的に分析した。当事者の困難として、【生活維持への戸惑い】【もとどおりにならない歩行のもどかしさ】【禁忌肢位に伴う生活制限】、家族の困難として、【介護生活継続の不安】【排泄・移動介助の負担】【制度やサービスの対象外の不満】、療養生活における当事者及び家族の対処として、【機能回復への奮起】【日常生活動作を安全安楽にする工夫】【喪失した役割再獲得への意欲強化】【自分なりのサービス利用】【介護における家族の強みの強化】【住みやすい住環境整備】の категорияが生成された。大腿骨疾患の在宅療養初期の困難として、禁忌肢位や移動に関連する内容が多く語られたのは特徴的であった。また、生活上の対処として、自分なりのサービス活用や工夫など「自助」が多く語られた。この背景には、大腿骨損傷はリハビリの頑張りしだいで機能回復できるという思いがあり、これが自助努力につながっていると推測された。

(本研究は、平成26年度に敦賀市立看護大学競争的研究費の配分を受けて実施した研究である。なお、本研究は福井県地域共同リポジトリ (<http://crf.flib.u-fukui.ac.jp/dspace/>) に掲載し、大学外への情報発信を行っている。)

2. 研究報告会

看護や地域医療保健福祉の質の向上を目指すことを目的として、平成 29 年 11 月 7 日、第 1 回敦賀市立看護大学研究報告会を開催した。計 13 題の演題の申し込みがあり、口頭による研究成果や実践報告の発表が行われた。敦賀で働く者同士の交流の場となり有意義であったと等の意見が聞かれた。手順や検討事項等を次年度へ引き継いでいくこととなった。

【プログラム】

第一部 演題名と発表者 座長 鈴木 隆史（敦賀市立看護大学）

1. 通所介護における維持改善に向けた取り組み
○柴田 安規（（有）ほっとリハビリシステムズ ほっと地域リハビリセンター敦賀）
2. 筋原性頸部痛の病態
○田尻 和八（市立敦賀病院 整形外科）
3. 当病棟入院患者の口腔内状態の実態調査
○菅沼 知世（敦賀医療センター 4階病棟）
4. 地域包括ケア病棟におけるユマニチュードの技法を用いた生活リハビリテーションの効果
○上條 君江（敦賀医療センター 5階病棟）
5. 患者在宅生活をイメージした看護につなげるために～訪問看護ステーション実習の取り組み～
○山田 由紀子（敦賀医療センター 看護部）
6. 当院セミオープンシステムの問題点と改善点
○長野 昌代（市立敦賀病院）
7. 新人看護師が離職を思い留まる要因の検討
○小田島 尚子（市立敦賀病院）
8. 当院看護師による運動指導の質の向上を目的とした取り組みについて
○大澤 拓実（市立敦賀病院 リハビリテーション室）

第二部 演題名と発表者 座長 畑野 相子（敦賀市立看護大学）

9. 第 2 子を妊娠した母親への育児支援に関する助産師の認識
第 1 報 育児支援の状況について
○吉川 由希子（敦賀市立看護大学）
10. 第 2 子を妊娠した母親への育児支援に関する助産師の認識
第 2 報 第 1 子に関する母親の育児相談について
○後藤 千佐子（敦賀市立看護大学）
11. 働く世代のがん患者へ経済的支援を目指した情報提供サイト「がん制度ドックβ版」の利用状況の分析
○池原 弘展（敦賀市立看護大学）
12. 臥床高齢者の布団被覆の有無による皮膚温と寝床内気候の季節差に関する検討
○林 愛乃（敦賀市立看護大学）
13. 皮膚血流評価手法の検討
○伊部 亜希（敦賀市立看護大学）



Ⅲ 地域への協力

1. 美浜町への協力

美浜町からの委嘱を受け国民健康保険医療費適正化についてアドバイスした。また、呼びかけを受け、地域貢献を目的とし、美浜町が企画するイベントや研修会に参加協力した。

1) 平成 29 年 4 月 美浜町国民健康保険医療費適正化のアドバイザーとして協力

数回にわたって、美浜町職員およびコンサルタントとともに資料を解析するとともに助言を行った。

9月3日 第1回 美浜町（国民健康保険）医療費適正化部会開催 部長に就任

10月14日 第2回医療費適正化部会開催

2回にわたる医療費適正化部会の検討により、

12月19日 美浜町長に対して医療費適正化検討に関する報告書を提出した。

2) みはまナビフェス 2017（健康福祉部門）はあとびあまつり

平成 29 年 11 月 25・26 日、教職員 2 名が事前に展示コーナーにおいて、大学および地域・在宅ケア研究センターの活動に関するポスターを掲示、パンフレットを設置し PR を行った。26 日の体験コーナーでは、教員 2 名が来場者に「コグニサイズ」を紹介し、一緒に実践した。



3) 健康づくりフォーラム～これからのげんげん運動～

平成 30 年 2 月 18 日、教員 2 名が参加した。各地区のげんげん運動の実践発表や活動報告、講演会「タニタの健康セミナー」等を通して、美浜町の健康づくりの動向を把握した。



4) 老人家庭相談員研修会

平成 30 年 2 月 22 日、4 人の教員が、老人家庭相談員の研修会に参加した。相談員 30 名を対象に、ミニ講演「住み慣れた地域で安心して暮らすためのサポート」を行い、次にグループに分かれ、交流しながら日頃の相談活動の中で対応に困ったことなどを話し合った。各グループの話合いで得た内容を共有し、今後の活動に活かしていくことが確認された。



2. 平成 29 年度ボランティア参加実績

平成 29 年度におけるボランティア参加は 10 件であった（表 6-1）。平成 26 年度からの年次推移は表 6-2 に示した通りである。

表 6-1 ボランティア参加状況

No.	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	6月4日	クリーンアップふくい大作戦	敦賀市	気比の松原	海岸清掃	学生23名 教職員7名
2	8月9日	めいほう祭り	明峰会	明峰クリニック駐車場	めいほう祭りボランティア	学生2名
3	8月11日	かくだ夏祭り	かくだ	敦賀さらめきみなと館	かくだ夏祭りボランティア	学生4名
4	8月15日	第29回福井県小児糖尿病サマーキャンプ	福井大学医学部 小児科	福井県芦原青年の家	サマーキャンプボランティア	学生4名
5	8月26日	眞盛苑「夏祭り」	眞盛苑	特別養護老人ホーム眞盛苑	夏祭り運営ボランティア(模擬店等)	学生7名
6	10月14日	ダイヤモンド・プリンセス寄港	敦賀市	敦賀新港	通訳ボランティア	学生3名
7	10月28日	敦賀市障がい者スポーツ大会	敦賀市	敦賀市総合運動公園	障がい者への援助等ボランティア	学生3名
8	11月25日	あいあい交流フェスタ	敦賀市社会福祉協議会	敦賀市福祉総合センター	交流コーナー運営ボランティア	学生6名
9	11月25日	敦賀市医療センター災害訓練	敦賀医療センター	敦賀医療センター	災害訓練模擬患者等ボランティア	学生3名
10	毎月第一・第三水曜日	こども食堂青空	こども食堂青空	男女共同参画センター	学習ボランティア	学生4名 (随時)

表 6-2 ボランティア参加の年次推移

	26 年度		27 年度		28 年度		29 年度	
	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数
学生	4	39	10	77	9	40	10	59
教職員	2	7	2	13	3	7	1	7

3. 敦賀市各種委員会等への参加

敦賀市各種委員会への参加は1件であった（表7-1）。平成26年度からの年次推移を表7-2に示した。

表7-1 敦賀市の各種委員会等への参加状況

No.	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	平成26年度～	つるがふるさとサポーター	敦賀市政策推進課	地元等	地元への敦賀市の広報	学生5名

表7-2 敦賀市の各種委員会等への参加状況の年次推移

	26年度		27年度		28年度		29年度	
	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数
学生	2	7	4	10	4	10	1	5

4. 地域行事参加

地域行事への参加は7件であった（表8-1）。平成26年度からの年次推移を表8-2に示した。

表8-1 地域行事等への参加状況

No.	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	7月29日	気比神宮の杜フェスタ	商工会議所青年部	気比神宮周辺	展示及び体験コーナー	学生10名
2	8月23日	平成29年度第1回多職種連携研修会	敦賀市在宅医療在宅介護連携推進協議会	あいあいプラザ	講演、グループワーク	学生2名 教員1名
3	9月3日	敦賀まつり神輿担ぎ	つるがみこしの会	気比神宮周辺	神輿担ぎ手	学生2名 職員1名
4	9月4日	敦賀まつり山車巡行	相生町青年会	相生町・気比神宮	山車巡行の引手	学生1名 教員1名
5	9月18日	和田de路地祭	COC+まちづくりWG	高浜町和田地区	和田de路地祭の運営	学生4名 教職員2名
6	9月30日	ふくい学生祭	福井学生祭実行委員会	芝政ワールド	学生の企画・運営による学生祭	学生2名 (実行委員)
7	9月30日	シンポジウム「在宅療養を支える多職種連携の現状と課題」	COC+看護福祉分野WG	敦賀市立看護大学	シンポジウム参加	学生123名

表 8-2 地域行事等への参加状況の年次推移

	26年度		27年度		28年度		29年度	
	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数
学生	2	7	5	61	9	61	7	144
教職員	2	5	3	10	7	10	4	5



あいあい交流フェスタ



きれいに
なりました!



わっしょい! わっしょい!

平成 29 年度 地域・在宅ケア研究センター運営会議 構成員

(◎センター長、五十音順、敬称略)

木谷尚美、鈴木隆史、中堀伸枝、◎畑野相子、茂庭将彦、家根明子、(事務) 清水典彦

平成 29 年度 地域・在宅ケア研究センター活動報告書

平成 30 年 3 月 31 日発行

編集発行 敦賀市立看護大学

〒914-0814 福井県敦賀市木崎 78-2-1 TEL:0770-20-5500
